第４章

青梅市教育委員会の
学力向上に関わる取組について

Ⅰ　青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について

青梅市教育委員会では、教育目標にある「自ら学びを考え行動する、個性と創造力豊かな人間」の育成および青梅市教育推進プラン（改訂版、平成 23 年 3 月）の柱２「社会のよき形成者となるために」の(3)自ら学び、自ら考える力を育成する、提言１「学力向上に向けた取組の推進」を踏まえ、次のような取組を行っている。

１　「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施

児童・生徒の「確かな学力」の定着と伸長を図るために東京都教育委員会が実施している「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、その分析結果を基に、学力向上施策の充実を図り、市内各小・中学校における授業改善を推進する。

２　「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の報告書の作成

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析を行うことにより、課題を明らかにし、その解決策としての授業改善のポイントを示した。報告書を作成し、市内各小・中学校に配付し、学校における授業改善の具体的な取組を支援する。

３　東京ベーシック・ドリルの実施

小学校第４学年から中学校第３学年までの６つの学年を対象に、年２回の調査を行いった。対象学年の 1 つ下の学年のドリルを実施し、１年間の中での変化を把握し、教員の授業力向上に役立てた。

結果については、学力向上委員会で紹介し分析等を行った。

４　授業改善推進プランの作成・提出依頼

市内全小・中学校に対して、国や都の学力調査の結果や第１学期の児童・生徒の学習状況、評価の結果等を基にした「授業改善推進プラン」の作成を依頼し、提出を求めることで授業改善を推進している。

５　「学力向上推進委員会」の設置

青梅市の学力向上施策に関する検討を行う委員会（各小・中学校の代表、担当校長、副校長から構成）を設置することにより、青梅市教育委員会と学校との連携を強化する。

委員全員によるグループ検証授業を行い、授業力向上に努める。また検証授業前には、グループ内での指導案検討を、授業終了後には協議会を行い、更なる児童・生徒の学力向上に努める。

６　学校訪問の実施

教育委員会訪問や指導室訪問等を通して各校の授業改善の取組状況を確認するとともに指導・助言を行う。

学力向上推進委員の検証授業においても、担当管理職や指導主事が訪問し、協議会を行い、より専門的な指導・助言を行う。

７　小・中学校教育研究発表会の開催

青梅市立小・中学校の個人、団体等において推進する研究の成果を発表し、本市の学校教育の充実・向上を図ることを目的とする。

平成２９年度は、小学校の研究発表会において、中学校の取組を発表し、中学校の研究発表会において、小学校の取組を発表することで、小中一貫にも位置づけた。

平成３０年度からは、やる気・根気・考えるをスローガンに据え、児童・生徒の主体性を育む授業改善に取り組んだ。

Ⅱ　青梅市学力向上新５カ年計画

「やる気・根気・考える」 学力向上5カ年計画　～勉強好き、青梅好きの育成～

育成すべき資質・能力	取組の方向性	具体的な取組	平成30年度 2018年度
やる気 学びに向かう力 人間性等 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか	子供の自尊感情の高揚	*教育委員会表彰制度の充実* *東京都等の表彰制度への推薦*	*各種表彰制度の周知* *活躍している児童・生徒および教員の推薦*
	青梅のよさを生かした教育の推進	*青梅学の推進*	*児童・生徒に伝えたい青梅の自然、伝統・文化等の教材化*
	思いやり・規範意識の育成	道徳教育の充実 いじめゼロ宣言子ども議会の充実 中学生職場体験の充実	各教科等と関連した道徳教育の充実、考える議論する道徳 小・中一貫いじめ撲滅の取組 協力事業所の開拓・公表
根気 知識・技能 何を理解しているか 何ができるか	個に応じた指導の充実	習熟度クラス、少人数クラスの導入②	指導方法の工夫・改善
	子供の学びの場の充実	放課後・長期休業日の補習 土曜日の学びの場の確保③	地域人材の活用 対象者の10%登録 満足度80%以上
	家庭学習の定着および充実	家庭学習の定着および充実①	家庭学習の啓発資料の活用 *家庭学習強化月間（6・2月）*
考える 思考力・判断力 表現力等 理解していること・できることをどう使うか	授業改善の推進	学力向上推進委員会外部委員の活用④ 各学力調査結果の分析・公表・活用⑥ 教育研究指定校の支援	発表校：新町小、第三中
	思考力・判断力・表現力を育成する機会の充実	小・中学生主張大会の充実 国際理解講座の充実 プログラミング教育の推進（新規）	既存事業の充実 新規事業の周知・実施
	子供の可能性を伸長する場の充実	ICTの活用 学校図書館の充実	小学校タブレットPCの活用 中学校タブレットPCの導入 学校図書館支援員全校配置

			（ ）内は平成29年度	数　値　目　標
行動目標	※1	良い点や可能性を見付け、評価をした 30・29	（小：52.9%　中：27.3%）	43%以上（小：47.1%　**中：36.4%**）
	※2	保護者に家庭学習を促したか 63・60	（小：70.6%　中：27.3%）	54%以上（小：64.7%　**中：36.4%**）
	※3	習得・活用・探究を見通し工夫・改善した 22・21	（小：29.4%　中：18.2%）	25%以上（小：0.0%　中：18.2%）
成果目標	※4	自分にはよいところがある　6	（小：73.9%　中：68.0%）	70%以上　（**小：76.8%**　**中：77.4%**）
	※5	家で自分で計画を考えて勉強する　10	（小：60.4%　中：54.6%）	59%以上（**小：62.7%**　中：50.9%）
	※6	自分の考えを深めたり、広げたりできた 57・54	（小：64.3%　中：62.6%）	62%以上（**小：71.4%**　**中：70.9%**）

※1～※6は全国学力・学習状況調査の質問紙調査による。（※1～※3は学校質問紙「そう思う」と答えた学校の割合で「どちらかと言えばそう思

※　決議との関連　①家庭学習の定着および充実を図るための施策の推進　②習熟度別クラスおよび少人数クラスの導入の
④学力向上推進委員会への外部委員の導入　⑤学力向上のための長期計画の策定

※　補足資料				1　よく行った
行動目標	※1	良い点や可能性を見付け、評価をした 30・29	（小：**52.9%**　中：**27.3%**）	**47.1**
	※2	保護者に家庭学習を促したか 63・60	（小：**70.6%**　中：**27.3%**）	**64.7**
	※3	習得・活用・探究を見通し工夫・改善した 22.21	（小：**29.4%**　中：**18.2%**）	**0.0**
成果目標	※4	自分にはよいところがある　1	（小：**73.9%**　中：**68.0%**）	33.5
	※5	家で自分で計画を考えて勉強する　10	（小：**60.4%**　中：**54.6%**）	26.5
	※6	自分の考えを深めたり、広げたりできた 57・54	（小：**64.3%**　中：**62.6%**）	29.4

※　行動目標（学校質問紙の内容）は、肯定的回答にすると、ほぼ100%に
成果目標は（児童・生徒質問紙の内容）は、「よく行った」の回答のみでは、

【H.30（2018）→（2022）】

平成30年10月
青梅市教育委員会

東京オリンピック・パラリンピック

平成31年度 2019年度	2年度 2020年度	3年度 2021年度	4年度 2022年度	目標
				勉強好き、青梅好きの育成
各学校の教育課程への位置付けた指導				
小学校算数・中学校数学習熟度別指導、中学校英語少人数指導を中心に行う。（東京方式）				
保護者・市民向け家庭学習講習会		保護者・市民向け家庭学習講習会		
発表校：霞台小、友田小、西中	発表校：今井小、第六中	発表校：若草小、藤橋小、第七中	発表校：吹上小、霞台中	
プログラミング教育の充実				
小・中学校タブレットPCの活用				
（　）内は結果、太字下線は年度の目標達成				
50%以上	55%以上	60%以上	65%以上	
60%以上	65%以上	70%以上	75%以上	
30%以上	35%以上	40%以上	45%以上	
75%以上	80%以上	85%以上	90%以上	
65%以上	70%以上	75%以上	80%以上	
65%以上	70%以上	75%以上	80%以上	

う」は含まない。　※4～※6は児童・生徒質問紙「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童・生徒の割合）

推進　③放課後授業および土曜日授業の推進
⑥全国学力調査等の市の平均正答率等の公表の推進

30年度　行動目標と、成果目標の肯定的回答の内訳　（%）				
小学校		中学校		
2　どちらかといえば行った	1＋2（肯定的回答）	1　よく行った	2　どちらかといえば行った	1+2（肯定的回答）
47.1	94.2	**36.4**	63.6	100.0
35.3	100.0	**36.4**	63.6	100.0
76.5	76.5	**18.2**	72.7	90.9
43.3	**76.8**	36.2	41.2	**77.4**
36.2	**62.7**	16.2	34.7	**50.9**
42.0	**71.4**	28.0	42.9	**70.9**

なるため、5カ年計画には「よく行った」のみのデータを使用している。
数値が低いため、5カ年計画には「肯定的回答」のデータを使用している。

Ⅲ　学力向上推進委員会の取組

平成３０年４月

資料　１

平成３０年度　学力向上推進委員会について

１　目　的

各校における学力向上策および具体的な授業改善策を踏まえ、青梅市としての学力向上に向けた取組について検討を進め提言する。

本年度の活動の重点は、一昨年度に設定したテーマ『「主体的に学習し考える力」を育む授業づくり』を踏まえ、『勉強好き、青梅好きの児童・生徒の育成を目指し、教材や授業展開の工夫』とする。

２　研究テーマの経緯

平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度
・基礎的・基本的な学力の定着に向けた指導資料の作成 ・教科ごとの授業実践による検証	・家庭学習のすすめ　（保護者版）の作成 ・児童・生徒の実態に即した学力向上策の立案	・家庭学習のすすめ（児童・生徒版）の作成 ・学力調査における各教科の課題と問題の分析	・課題解決をするために必要な「考える力」を育む授業づくりを具現化する手立てを検証する。
平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度
・「主体的に学習し考える力」を育む授業づくりに向けた指導資料を作成する。	・「主体的に学習し考える力」を育む授業づくりに向けた指導資料を作成する。	・「主体的に学習し考える力」を育む授業づくりを推進する。	・「理解していること、できることを活用する機会の充実」を目指した教材・授業展開の工夫を推進する。

３　平成３０年度　学力向上推進委員会の取組

平成２９年度の各校における「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」の分析結果等を踏まえ、理解していること、できることを活用する機会を充実させる。児童・生徒一人一人に自信をもたせることによって、勉強好き、青梅好きの児童・生徒を育むことができる。地元に対して、誇りをもつことで、学習を中心とした様々な取組に対して、意欲的な児童・生徒の育成につなげていく。

＜数値目標＞

		平成３０年度
行動目標	良い点や可能性を見付け、評価をした （小 52.9%　中 27.3%）	４３%以上
	思考を深める発問や指導をした （小 41.2%　中 0.0%）	２５%以上
数値目標	自分には良いところがある （小 73.9%　中 68.0%）	７０%以上
	自分の考えを深めたり、広げたりできた （小 64.3%　中 62.6%）	６２%以上

（１）平成３０年度　学力向上推進委員について

・各小・中学校長は１名を委員として推薦する。

・小学校３グループ、中学校２グループを編成し、それぞれのグループでテーマにそった協議を行う。

・グループごとに、代表者１名の検証授業を行う。小学校、中学校、１グループづつは、推進委員会（第２回・第３回）にて、検証授業を行う。

・（講師招聘予定）東京女子体育大学常任理事・教授　田中　洋一先生

（２）共通主題（案）

「やる気・根気・考える」学力向上５カ年計画

～勉強好き、青梅好きの児童・生徒の育成を目指して～

（３）指導法の検討（検証授業と検証授業の分析）

・ 検証授業の実施

推進委員による小学校・中学校での検証授業を通して、指導法の有効性や課題を明らかにする。

・ 検証授業の分析・考察

検証授業を基に、設定した指導法（手だて）の有効性等について分析・考察し、授業改善に資する提案を考案する。

４　年間活動計画

	月・日（曜日）	主　な　内　容
1	6 月 29 日（金）	青梅市の学力向上施策について
2	10 月 19 日（金）	検証授業①
3	11 月 6 日（火）	検証授業②
4	2 月 18 日（月）	今年度の学力向上の取組についてまとめ

5　研究授業について（研究テーマ等）

＜研究テーマ＞

勉強好き、青梅好きの児童・生徒の育成を目指し、教材や授業展開の工夫

（１）　学習指導要領が求める学力

※東京学芸大学准教授　浅野あい子先生の資料より

《主体的・対話的で深い学び」の実現》

・これからの時代に求められた資質・能力を育む

・各教科の目標は 3 つの柱で統一（知識および技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等）

学校で育てる力は・・・

小・中・高を通じて、資質・能力を育成するために問題発見・解決の課程を重視

（２）主体的・対話的で深い学び実現のポイント

【主体的な学び】

・学ぶことに興味や関心をもつこと

・自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組むこと

・自己の学習活動を振り返って、次につなげること

【対話的な学び】

・子供同士の協働を通して

・教職員や地域の人との対話を通して

・先哲の考え方を手掛かりに考えることを通して

【深い学び】

・「見方・考え方」を働かせること

・知識を相互に関連付けてより深く理解すること

・情報を精査して考えを形成すること

・問題を見出して解決策を考えたり、考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすること

・本質を見極めたり、より良い方法を選べたりすること(算数・数学ワーキンググループ)

（３）主体的・対話的で深い学びの実現の視点からの授業改善

◆　単元または今日の授業の目標との関連の中で、子どもたちはどのような「見方・考え方」を働かせるのか(何に着目し、どのように解決するか：問題解決のアイディア)を明確にして授業づくりを行うこと。

◆　どのように解決したのかを発表するだけで終わらせず、それぞれの問題解決の過程に現れる着眼点や考え方に焦点を当てた話し合いや振り返りが行われるよう、それらを価値付ける発問や板書等を工夫すること

（4）子供が主体の授業づくりについて

ア　学習の流れ

	『子供主体の授業』の展開例	具体的な指導例
導入	☆子供たちが見通しをもつ　課題を把握する **学習課題をつかむ場面を設定した** □子供たちは課題をつかんでいた。 □子供たちは解決の見通しをもつことができた。	○子供たちの関心・意欲を高めたり、不都合感を感じさせたりする問題を提示した。 ○子供たちが課題をつかんだタイミングで課題を板書した。 ○見通しについて、ペアで相談させたり、前で説明させたりして、既習内容を思い出させ、全ての子供に解決の見通しをもたせた。
展開	☆子供たちが問題解決を図る **一人で考える場面を設定した** □ 子供たちは考えを書いたり、表したりしていた。	○子供たちが考える適切な時間を設定した。 ○机間指導を行い、個に応じた頑張りを認め、適切な声かけができた。 ○必要に応じて、意図的に指名をした。
	☆子供たちの知識や考えを深める活動 **集団で交流する場面を設定した** □ 子供たちは、自分の考えとその理由を伝えていた。 □ 子供たちは、学習課題を意識した発表や話し合いをしていた。	○ペアで考えを伝え合う時間をつくる等、一人一人に考えを発表させた。 ○子供のノートをスクリーン等に映し出して前で発表させる等、学習のゴールを意識した発表をさせた。 ○発問の後に数秒の間をとって指名したり、ペアで話し合わせたりして、全員が考えを深められるようにした。
終末	☆子供たちが学んだ知識や技能を振り返る（つかう） **ふりかえる場面を設定した** □子供たちは、学んだことを自分の言葉で書いたり、発表したりできた。 □子供たちは、学んだことを使うこと（確認問題等）ができた。	○授業の流れがわかる板書ができた。 ○課題を主語にして書かせる、キーワードを入れて書かせる等、まとめ方を工夫させた。 ○本時の学習を確かめる確認問題（宿題）等を出した。

イ　子供たちに力を付けさせる授業の要素

【教師の視点】（※力とは、基礎的・基本的な知識および技能、思考力・判断力・表現力等）

・身に付けさせる「力」が明確になっている。

・「力」を付けさせるための手だてが準備されている。

・「教えて考えさせる指導」が行われている。

・「力」が付いたかどうか、適切に評価され、指導に生かされている。

ウ　子供たちにとって学びがいのある授業の構成要素

【子供の視点】（※学びがいのあるとは、学習意欲がわいてくる授業）

・子供たち自身が、本授業によってどのような力が身に付き、実生活や実社会にどう生きるのか理解している。

・学び方が分かる（主体的に「自分の考え」を記述するなど）

・教材が魅力的である。

・適度な難易度である。

・頑張れば認めてもらえる。

（５）教師の視点　観察シート

資料1 【教科　　】　：　から　：　まで参観

年　月　日　　記入者

授業観察シート　【主体的に学習し考える子供を育む授業づくり】 授業者

番号	項　目	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
		4	3	2	1
		4	3	2	1
		4	3	2	1
		4	3	2	1
		4	3	2	1

自由記述欄（気付いた点とアドバイス）

番号	☆授業観察の具体項目
1	授業のねらいが焦点化されている。
2	教師は、子供が身に付ける「力」を明確に示し、指導している。
3	教師は、子供が「力」を身に付けるために手だてを準備している。
4	教師は、子供に「力」が付いたか、適切に評価し、指導に生かしている。
5	教師は、子供の習熟度に応じた指導を行っている。
6	教師の発話、学習形態、学習環境等によって、子供たちは主体性をもって学習に取り組んでいる。
7	教師は、「教えること」、「考えさせること」を明確に区別し、両者を関連付ける指導を工夫している。
8	教師は、授業内でより分かりやすく教える工夫をしている。
9	子供にとって、準備した教材は魅力的である。
10	子供にとって、授業の難易度は適度である。
11	子供は、授業のねらいが分かり、授業内で「力」を付けている。
12	教科のねらいを達成するために言語活動を取り入れている。
13	評価規準が、「力を付けた子供（評価観点B）の姿」となっている。
14	観点別評価状況のAおよびCの子供に対応する手だてが準備されている。
15	学習形態等の工夫により、子供が主体的に学習している。
16	学習環境等の整備が学習の一助となっている。

※ 学力向上推進委員会では、小学校３グループ、中学校２グループで研究協議を進めてきた。授業観察の際には、グループ毎に「観察の視点」を決め、その視点を重点的に観察した。

※ 教科に関係なく、ねらいに添った学習過程となっているかを共通課題とした。このシートをもとにグループ協議・発表を行った。

教師の視点

○子供に身に付く「力」とは？

・学習指導要領の指導事項をもとに、子供に身に付く「力」を明らかにする。

教師１ 子供に身に付ける「力」が明確になっている

○ねらいの焦点化

・単元（題材）、本時のねらいに、身に付ける「力」を明確に明記する。

・活動自体を目的とせず、活動を通して「力」をつけることを目的とする。

○効果的かつ自覚的な学習活動の展開

・子供たちが、活動を通してどのような「力」が付くのかが分かるようにする。

○ねらいをどのように提示するか？

・子供が、この時間何が分かればいいのか、どう活動していいのかが分かるねらいを具体的に示す。

・既習事項の活用

教師２ 教えること、考えさせることの明確な区別

○より分かりやすく教える工夫

・「教える」ことは、子供が自ら学び考えるために必須です。教えるべきことを分かりやすく教え、それらを活用して考えさせるようにする。

教師３ 「力」を付ける手だてが準備されている

○問題解決的な学習、個に応じた指導、言語活動　等

・指導の工夫が、当該教科等固有のねらいの達成に結びつくようにする。

教師４ 「力」が付いたかどうか？適切に評価され、指導に生かされている

○適切な評価規準の設定と活用

・評価規準とは、「力を付けた子供の姿（観点別評価B）」の姿。

○観点別学習状況の評価 A および C の子供に対応する手だて

・A および C の子供それぞれに対する具体的な手だてを準備する。

く指導計画の作成、授

共通主題　「理解していること、でき

『子供主体の授業』の展開例

導入

☆子供たちが見通しをもつ　課題を把握する

学習課題をつかむ場面を設定した

○ 子供に身に付く「力」とは？

教師１ ねらいの焦点化

□子供たちは課題をつかんでいた。

□子供たちは解決の見通しをもつことができた。

展開

○ 「教えて考えさせる指導」が行われている

教師２ 教えることと考えることを関連付ける

☆子供たちが問題解決を図る

一人で考える場面を設定した

○ 「力」を付ける手だてが準備されている

教師３ 問題解決的な学習　等

□ 子供たちは考えを書いたり、表したりしていた。

○言語活動

☆子供たちの知識や考えを深める活動例

集団で交流する場面を設定した

□ 子供たちは、自分の考えとその理由を伝えていた。

□ 子供たちは、学習課題を意識した発表や話し合いをしていた。

終末

☆子供たちが学んだ知識や技能を振り返る（つかう）

ふりかえる場面を設定した

□子供たちは、学んだことを自分の言葉で書いたり、発表したりすることができた。

□子供たちは、学んだことを使うこと（確認問題、適応問題等）ができた。

業観察の視点＞

ることを活用する機会の充実」

具体的な指導例

○子供たちの関心・意欲を高めたり、不都合感を感じさせたりする問題を提示する。

○子供たちが課題をつかんだタイミングで課題を板書した。
○見通しについて、ペアで相談させたり、前で説明させたりして、既習内容を思い出させ、全ての子供に解決の見通しをもたせた。

○子供たちが考える適切な時間を設定した。

○机間指導を行い、個に応じた頑張りを認め、適切な声かけができた。

○ペアで考えを伝え合う時間をつくる等、一人一人に考えを発表させた。
○子供のノートをスクリーン等に映し出して前で発表させる等、学習のゴールを意識した発表をさせた。
○発問の後に数秒の間をとって指名したり、ペアで話し合わせたりして、全員が考えを深められるようにした。

○授業の流れがわかる板書ができた。
○課題を主語にして書かせる、キーワードを入れて書かせる等、まとめ方を工夫させた。
○本時の学習を確かめる確認問題（宿題）等を出した。

子供の視点

子供１　身に付く「力」とその価値が分かる
○実社会や実生活との関わりを重視する
・子供たち自身が、当該の学習によってどのような力が身に付き、実生活や実社会にどう生きるのかについて、理解して学習を進めることで、より学習効果が上がる。

子供３　教材が魅力的である
○知的好奇心を喚起するものである
○探究のしがいがある
・子供の実態に照らし合わせて、十分に吟味するとともに、ねらいの実現に向けて、効果的な活用方法を研究する。（教材研究）

子供２　学び方が分かる
○ノートは思考の足跡
・友達の考えや新しい発見を加えながら、「自分の考え」を更新させる。

子供３　教材が魅力的である
○知的好奇心を喚起するものである
○探究のしがいがある。

子供４　適度な難易度である
※適度な難易度とは、子供の力のレベルよりもやや上のレベルを指す。
○苦手な子供、得意な子供の立場にたつ
○習熟に応じた指導
○個に応じた指導

子供５　頑張れば、認めてもらえる
○子供と教師の信頼関係の確立
○認め合い、支え合い、励まし合う学習集団の風土の醸成
○個人内評価の重視
・子供一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価しようとするもの。

（参考資料）「教師の視点」「子どもの視点」については『所報　たまじむ（学力を着実に育む授業づくり）」平成２４年１０月２６日を参考とした。